

最終報告書

協働プラットフォーム構築のためのアジアにおける「開発のためのラグビー」プログラム調査

1. 調査目的

本調査の目的は、ラグビーに注目してアジアにおける「Sport for Development and Peace: SDP」の現状を明らかにし、「より良いアジア」実現のための体系的なプログラム展開に向けた基盤を確立することである。具体的には、次の3点である。1点目は、フィリピン、ラオス、ベトナムで実施されている（された）プログラムのコーチが、その役割を全うする（した）際に現れてくる（きた）課題をどのように解決したのかを明らかにした上で、実施組織が期待するライフスキルをコーチたちがどのように身に着けている（た）のかを検討すること。2点目は、カンボジアで実施されているプログラムが、地域やコーチに対してどのような影響を及ぼしているのかを明らかにすること。3点目は、シンガポールにあるラグビー国際統括機関であるWorld Rugby（WR）が、SDPプログラムに近年以前よりも多くの資源を投入している理由と現在の課題を明らかにすることである。

2. 活動概要

探索的な位置づけにある本調査の目的は、ラグビーに注目してアジアにおける「Sport for Development and Peace: SDP」の現状を明らかにし、「より良いアジア」実現のための体系的なプログラム展開に向けた基盤を確立することであった。

本調査を通じて、まず、フィリピン、ラオス、ベトナムで実施されている（された）プログラムのコーチが、その役割を全うする（した）際に現れてくる（きた）課題を、主に上司や同僚とのコミュニケーションを通じて解決している姿を理解することができた。また、コーチ自らの態度を客観視する機会を作り出すことができるコーチという役割そのものが、ライフスキルの習得に寄与している可能性を理解できた。次に、カンボジアで実施されているプログラムが、地域の教育とスポーツ環境の改善に寄与しつつ、スポーツ指導者という新しい雇用を創出している点を理解できた。くわえて、前述の国々におけるプログラムと同様に、プログラムがコーチという責任ある役割の提供と海外とのネットワーク構築の機会提供を伴いながら、コーチのライフスキル習得を進めている点も理解することができた。最後に、シンガポールにあるWRが、通常のラグビー普及活動とは異なる住民層にまで普及対象を拡大できる方法として、SDPへ期待していることを理解できた。ラグビーとラグビーの価値をプログラムに直接的に活用できる点も、WRがSDPに関心を持つ理由であった。現時点での課題は、最終目的が異なる組織との協働、すなわちラグビーの普及というWRの目的と、子どもたちの教育環境改善というChildFundの最終目的の両立であった。

さらには、フィリピン、カンボジア、ラオス、ベトナムならびにシンガポールでの質的調査の実施によって、アジアにおいて知名度が高いとはいえないラグビーを用いたプログラムの優位性を理解することができた。また、同じNGOが展開するプログラムであっても、プログラムを取り巻く社会構造によって、異なる意味付けがコーチやその関係者たちになされていることも理解できた。

今後、本調査を通じて構築された研究者やコーチとのネットワークを活用して、個別のプログラムに焦点を当てた調査を実施していきたい。その際、たとえば前述のような、ラグビーの国際競技連盟であるWRの「開発」への接近というプログラムを取り巻くグローバルな構造と、たとえ小さな地区であっても存在すると考えられる「社会的排除」などと関連づけて検討することができるローカルな構造に留意した調査が求められると考えている。なぜならば、その二つの構造が相互に反響し合いながらプログラムに影響を及ぼしていることを視角に含んだ視点から批判的にプログラムをとらえることができなければ、「開発を受容する側」を取り巻く困難な状況の改善が難しいと本調査を通じて理解できたからである。

期間	活動地・活動拠点	活動概要
2018/8/1-9	Bacolod, Philippine	Pass It Back コーチ 6 名、フィリピンラグビー協会関係者 1 名へのインタビュー調査
2018/8/9-18	Phnom Penh, Cambodia	Kampuchea Balopp コーチ 4 名、共同設立者など 2 名へのインタビュー調査
2018/8/18-21	Singapore	World Rugby (IF) アジアサービスマネージャーへのインタビュー調査
2018/8/21-30	Vientiane and Xieng Khouang, Laos	Pass It Back コーチ 13 名、ChildFund 関係者 1 名、地元学校教師 2 名へのインタビュー調査
2018/8/30-9/7	Hanoi and Kim Boi, Vietnam	Pass It Back コーチ 14 名、コーチの家族 6 名、地元行政担当者 1 名、地元学校教師 2 名、ChildFund 関係者 3 名へのインタビュー調査

インタビュー調査概要

国	都市	期間	調査協力者	内訳				
			合計	コーチ	協会	NGO	IF	その他
フィリピン	バコロド	2018/8/1-9	7	6	1			
カンボジア	プノンペン	2018/8/9-18	7	4		1		2
シンガポール		2018/8/18-21	1				1	
ラオス	ビエンチャン	2018/8/21-24, 29-30	10	5	4	1		1
	シンクワン	2018/8/24-29	6	5				1
ベトナム	Hanoi	2018/8/30-31, 9/5-7	25	13		3		9
	Kim Boi	2018/8/31-9/5	1			1		
			59	33	5	7	1	13

各国でのフィールドワーク

【バコロド・フィリピン】

受入機関：ChildFund Japan Phillippine Office

- ① コーチの抱えていた主な課題
 - ・選手のリクルート ・練習場所の確保
 - ・練習スケジュール調整 ・選手の移動コスト負担
 - ・自身のコーチングスキルの不足
- ② 課題の克服方法
 - ・個人的検討、インターネット活用
 - ・コーチ間での検討
 - ・コーチリーダーへの相談
- ③ 課題克服の際のモチベーション
 - ・責任のある役割 ・関心のある競技への参加
 - ・金銭的報酬 ・貴重な機会（海外渡航など）の獲得可能性
 - ・西側の組織への参加
- ④ その他
 - ・コーチの自宅を訪れることができた
 - ・市場を視察した



【プノンペン・カンボジア】

受入機関：Kampucea Ballop

① プログラムが社会に及ぼした影響

- ・新しい雇用の創出
- ・教育とスポーツ環境の改善（プロコーチによる指導）

② プログラムがコーチに及ぼした影響

- ・雇用提供
- ・責任ある役割の提供
- ・海外とのネットワーク構築
- ・ライフスキルの獲得

③ その他

- ・調査者が代表を務める社団と Kampucea Ballop との連携について検討することとなった
- ・プノンペンにおける「ラグビーのための開発」プログラムを調査した研究者 A 氏との議論

【シンガポール】

受入機関：World Rugby

① SDP への関心が高まった理由

- ・各国協会が独自に SDP プログラムを推進したことにより、WR において SDP への関心が高まった

② SDP を推進する理由

- ・ラグビー普及のため（新しい住民層へアプローチできる、ラグビーへの新しい関心者（政府関係者など）を獲得することができる。）

③ 社会貢献プログラムの変更の理由（Tackle Hunger by World Food Programme to Pass It Back by ChildFund）

- ・啓発と資金提供に加えて、ラグビーの価値（リスペクト、ソリダリティなど）とラグビーのアクティビティをプログラムに直接関連付けることができるから。

④ SDP を推進する上での課題

- ・最終目的が異なる組織との協働。WR の最終目的はラグビーの普及であるが、ChildFund の最終目的は子どもたちの教育である。プログラムを実施する上で、どのようにバランスをとりながら両者の目的を達成するかという点が非常に難しい。

【ラオス】

受入機関：ChildFund Laos

① コーチの抱えていた主な課題

- ・女性に対する偏見
- ・選手のリクルート
- ・練習場所の確保
- ・選手の移動コスト負担
- ・練習スケジュール調整
- ・適切な道具の不足
- ・自身の学業との両立

② 課題の克服方法

- ・主に個人的検討、インターネット活用

③ 課題克服の際のモチベーション

- ・責任のある役割
- ・関心のある競技への参加
- ・金銭的報酬
- ・貴重な機会（海外渡航など）の獲得可能性
- ・肉体的に負荷が小さい
- ・社会的貢献
- ・西側の組織への参加

④ その他

- ・ラオスラグビー協会スタッフと障害者ラグビーに関する議論を行った
- ・ラオスにおける「開発のためのラグビー」を調査している B 氏とネットワークを構築した



【ベトナム】

受入機関：ChildFund Vietnam

- ① コーチの抱えていた主な課題
 - ・女性に対する偏見 ・選手のリクルート
 - ・練習スケジュール調整 ・選手の移動コスト負担
 - ・自身のコーチングスキルの不足 ・練習場所の確保
- ② 課題の克服方法
 - ・主に個人的検討、インターネット活用
- ③ 課題克服の際のモチベーション
 - ・責任のある役割 ・関心のある競技への参加
 - ・金銭的報酬 ・貴重な機会（海外渡航など）の獲得可能性
 - ・社会的役割 ・西側の組織への参加
 - ・比較的自宅から近い勤務場所



3. 今後の展開

- ① 2018年12月に実施される日本スポーツ振興センターと日本ラグビーフットボール協会が連携して実施される Sport for Tomorrow プログラムにおいて、本調査を通じてラオスラグビー協会と議論された障害者も含んだ選手によるラグビー交流会が開催される。
- ② 調査者が勤務する流通経済大学の講義において、本調査が事例として活用され「より良いアジア」創出に貢献できる人材の育成が進められる。
- ③ 本調査を通じて構築された研究者ネットワークを通じて継続的な議論を進める予定である。
- ④ 調査者が代表を務める一般社団法人子どもスポーツ国際交流協会と Kampucea Ballop との連携構想を実現化させ、キッズラグビー国際交流にカンボジアの子どもたちを日本に招きたいと考えている。
- ⑤ 本調査結果の論文化を進める。合わせて ChildFund Pass It Back との共著として報告書を作成する予定である。

参考：全体スケジュール

Date	Schedule	Notes
Philippines		
Aug. 1 (wed)	Arrive at Bacolod	Philippine Rugby football union
Aug. 2	Interview	
Aug. 3	Interview	
Aug. 4	Interview	
Aug. 5	Interview	
Aug. 9	Depart Bacolod	
Cambodia		
Aug. 9	Arrive at Phnom Penh	Phnom Penh Social Rugby Club Kampuchea Balopp
Aug. 10	Interview	
Aug. 11- 17	Interview	
	Observe sessions	
	Inspect Rugby Wallet factory	
Aug. 18	Depart Phnom Penh	
Singapore		
Aug. 18	Arrive at Singapore	World Rugby
Aug. 19 - 20	Interview	
Aug. 21	Depart Singapore	
Laos		
Aug. 21 (tue)	Arrive at Vientiane	Lao Rugby Federation ChildFund Laos
Aug. 22(wed)	LRF and ChildFund brief, review methods, timetable, safeguarding/consent process, interpreter brief	
Aug. 23(thu)	Coaches FGD, join club training	
Aug.24 (fri)	Travel to Phonesavan	
Aug.25 (sat)	Observe sessions + interview	
Aug.26 (sun)	Observe sessions	
Aug.27(mon)	Participant observation in local community	
Aug.28(tue)	Desk review	
Aug. 29(wed)	Travel to Vientiane	
Vietnam		
Aug. 30(thu)	Arrive at Hanoi	ChildFund Vietnam
Aug. 31(fri)	Travel to Kimboi, review methods, timetable, safeguarding/consent process	
Sep. 1(Sat)	Observe sessions + interviews (coaches and CGLs)	
Sep. 2(Sun)	Observe sessions + interviews (coaches and CGLs. Parents of coaches)	

Sep. 3(Mon)	Interview	
Sep. 4(Tue)	Desk review	
Sep. 5(Wed)	Interview Wrap up Travel to Hanoi	
Sep. 6(Thu)	Desk Review	
Sep.7 (fri)	Depart Hanoi	